

管楽合奏は楽しい会？

No.37 "ゴロワーズ？"

2011年11月20日(日)14時開演 深川江戸資料館

モーツァルト & ドゥルシェツキ
(捷/1745~1819)

「グルックの主題に拠る変奏曲」
(Cl)景山/庄子 (Fg)三好/角山 (Hn)萩原/吉賀

クロイツァー (独/1780~1849)

「6つのワルツ」
(Cl)庄子/景山 (Fg)角山/三好 (Hn)吉賀/井上

フィアラ (捷/1748~1816)

「嬉遊曲第3番」~管楽七重奏曲
(Cor.Ang)土屋/一宮 (Fg)山田/三好 (Hn)市原/市本/吉賀

クロンマー (捷/1759~1831)

「組曲 Op.57」~管楽八重奏曲
(Ob)一宮/土屋 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)尾作/山田 (Hn)市原/市本

----- Intermission -----

ランゲ (諾/1861~1939)

「九重奏曲」
(Fl)岡添 (Ob)楠原/一宮 (Cl)景山/上田 (Fg)山田/尾作 (Hn)井上/萩原

ゲーヴィ (仏/1819~1898)

「小組曲 ゴロワーズ」
(Fl)岡添 (Ob)楠原/土屋 (Cl)兼氏/宮下 (Fg)尾作/角山 (Hn)井上/市原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学在学中ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、別科修了後元ハンブルク州立劇場奏者F.ヘンカー氏に師事。フリーの奏者として今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を主催。その他オケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。演奏活動では「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを、またリード製作者としても高い評価を得ており「森川リード倶楽部」も主宰している。2002年に法政響のOBで設立した「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆 (おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーで化学の研究企画に携わる。「研究のアイデアは音楽で演奏する時のアイデアと共通するものがある」と主張し、部下達にあきられている。指揮もする才人。

(Ob)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

北海道出身、横浜育ちで仙台在住。中学校からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤世の各氏に師事。大学を卒業、就職したのを機に念願のアマチュアオケに入団。以降、レッスンの度に高崎へ、また声が掛ければ喜んで上京し演奏活動をする日々を送る。本職は施設勤務の医療専門職。

(Ob)土屋英晃 (つちや ひであき) 初参加!

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部を卒業。同大学卒業演奏会に出演。第12回別府アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演。市川市文化振興財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格、同時に優秀賞を得る。これまでにオーボエを、藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に師事。室内楽を、白尾彰、岡本正之の各氏に師事。現在、桐朋学園大学音楽学部研究生2年在学中。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、Ensemble Le Creuset(管楽五重奏)メンバー。

(Ob)楠原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がガラガラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Cl)景山賢嗣 (かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。クラリネットを平林邦男氏に師事。大学一年の情報処理の成績が「可」であったにもかかわらず、大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤めている。専門は、大量トランザクションを扱うオンラインシステム。

(Cl)兼氏規雄 (かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ゾリス代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)上田奈緒 (うえだ なお)

10歳よりクラリネットを始める。桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科修了。第5回金沢市新人演奏会出演、審査員グランプリ受賞。第16回江戸川区新人演奏会出演。第6回石川県新人登竜門コンサートにてオーケストラアンサンブル金沢と共演。これまでにクラリネットを柴欽也、二宮和子の両氏に、室内楽を鈴木良昭、四戸世紀、藤井一興の各氏に師事。現在フリー奏者として活動。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)庄子穂奈美 (しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦に、室内楽を太田茂に師事。現在昭和音楽大学短期大学部に在学。学外ではヴェントムジカオーケストラに所属し演奏面、指導面ともに修業中

(Cl)宮下節子 (みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後名古屋市内管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団で演奏している。クラリネットを平林邦男氏に師事。平日は裁判所で働く国家公務員。

(Fg)尾作拓郎 (おさく たくろう)

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団、ヴェントムジカオーケストラに所属。「法政ファゴットの会」同人

(Fg)角山由美 (かくやま よしみ)

法政二高では吹奏楽部、その後法政大学交響楽団で演奏、ジュネスにも出演する。卒業以来、日本音楽著作権協会(JASRAC)にて、音楽家の権利を守る仕事一筋。昨春秋に一線を退き、改めてファゴットの基礎から取り組みたいと楽器を奏する意欲は旺盛。今年4月のドイツ旅行で新鮮な音楽感覚を体験し、音楽に対する情熱はますます熱くなっている。加えてコントラファゴットの名手でもある。「管楽合奏は楽しい会?」ホームページの管理人。「法政ファゴットの会」同人

(Fg)三好純子 (みよし じゅんこ)

中学の吹奏楽部でファゴットを始める。千葉大学在学中よりファゴットを森川一氏に師事し、虎ノ門交響楽団で角山氏と演奏。その後福岡にて福岡市民オーケストラ、アルモニア管弦楽団(佐賀)にて活動。2008年より東京在住。測量調査会社で、地図や大量のデータと毎日格闘している。現在、モーツァルト・アンサンブル・オーケストラに在籍。仕事と家事と趣味のバランスが悩みのタネである

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

法政二高ではブラスバンド、その後法政大学交響楽団、ジュネスでファゴットを演奏する。ファゴットを森川一氏に師事。現在は同大学院工学研究科博士課程を経て博士号取得。法政大学その他で講師を務めている。東京アマデウス管弦楽団で演奏するほかエキストラとして多くのオケに出演にコントラファゴットも手に入れ演奏活動にも熱が入っている。「法政ファゴットの会」同人

(Hr)市原秀紀 (いちばら ひでき)

茨城育ち。オーケストラのホルンにあこがれ、中学校からホルンを始める。東京大学音楽部管弦楽団では故・伊藤泰世氏に師事。最近新たに師匠を見つけた模様。現在東京アマデウス管弦楽団所属、Strudel Hornistenを主宰。博士課程を出て民間企業。入社面接で東京配属と騙され沼津に配属される。現在は週末になると楽器を背に上京、その疲れで月曜日にぐったりする生活。専門は高分子エレクトロニクス→現在は電池

(Hn)市本絢子 (いちもと あやこ)

広島県立安古市高校および国立音楽大学卒業。広島市新人演奏会出演。同校卒業後桐朋学園大学研究科修了。別府アルグリッチ音楽祭にオーケストラメンバーとして参加。これまでにホルンを河原完、澤敦、故一色隆雄、大野良雄、西條貴人、今井仁志、室内楽を生島繁、山本英助、三浦徹、津堅直弘、鈴木良昭、嶋崎耕三、浅野高瑛の各氏に師事。

(Hr)井上 華 (いのうえ はな) 初参加!

東京都出身。16歳よりホルンを始める。桐朋学園大学音楽学部卒業。同大学卒業演奏会に出演。在学中に2010アルグリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。第19回日本クラシックコンクール一般の部入賞。これまでにホルンを守山光三、猶井正幸に師事。現在同大学研究生一年在籍中。

(Hr)萩原裕人 (はぎわら ひろと)

(Hn)吉賀智司 (よしが ともし)

ボヘミアは管楽器奏者の宝庫であり、今も昔もそれは変わりません。また多くの管楽作品もこの地の作曲家から生まれています。そして、現在はフランスも管楽器の国と言われています。両地域の音楽は違いますが、我々管楽器奏者にとって欠かせない存在です。今回のプログラムはボヘミアからフランスまで音楽を辿る旅です。

"管楽合奏は楽しい会?"は文字通り管楽合奏の楽しさを追求しています。またプロとアマが合奏をする事で、その間にあると思われる「最高の演奏」を狙う団体です。つまり「プロの技術で、アマチュアの心」を持った演奏が出来れば、これこそが「フィルハーモニー」だろうと考えるのです。そうした理想にどれだけ近付けるか、その判断は御来場の皆様にお任せ致しますが、最後までお楽しみ戴ければ仕合わせに存じます。

宜しければ、感想などお聞かせ下さい。メールアドレスは heckelfg@gmail.com です。

今回は2012年5月12日(日)タワーホール船堀にて行いますが、アンサンブル・インセクツとの共同開催になります。曲目はベルナール「嬉遊曲」R.シュトラウス「組曲」その他で、指揮は菅原 眸、森川 一です。